

講義年月日 2007年12月10日

講演者 牛崎 進 氏 (立教大学図書館事務部長)

テーマ 立教大学図書館について

講義内容

## 1. 立教大学図書館について

組織・人材養成

### a. 組織

- ・ 2007年10月現在：職員33名、派遣8名、臨時職員（アルバイト）10名、委託スタッフ（カウンター業務や夜間業務、各科学系図書館のスタッフ）67名
- ・ 2007年現在7課 2008年3課へ いずれ2課体制へ
- ・ 職員25名体制へ 新図書館ができれば中央図書館と3つの学系図書館の統合が前提

### b. 人材養成

- ・ 採用：年齢や男女比など埋めるため、30～40歳の経験者採用を予定
- ・ 研修：次年度より職員の研修プログラムを再検討 大学職員として良い人材を図書館から輩出することも想定

施設整備計画

- ・ 現状173万冊の蔵書
- ・ 2012年10月新中央図書館 池袋の4館を集約 2020年代後半まで全学で300万冊収容可能にする

教学支援の強化

- ・ 授業内での情報リテラシー教育を積極的に
- ・ 教員とのコミュニケーション必要 一人一人の教員と個別に対応する必要性あり

## 2. 図書館利用の促進策

- ・ 昔は可視的情報（ハード）しかなかったが、現在は見えないもの（ソフト、ネットワーク情報）もある。  
ハード面（施設設備、パッケージ系の情報など）とソフト面（インターネット情報等）の両面を整備
- ・ 学生と教員の学習・教育研究に係わる行動パターンを知る  
学生は忙しい（授業、友達との会話、アルバイト、資格取得の勉強等）
- ・ 図書館に対してどのようなニーズがあるのか？
- ・ 図書館の何に不満があるのか？
- ・ 図書館に満足している場合、何に満足しているのか？
- ・ 経営資源（＝図書費・運営経費・職員＝マンパワー）の整備及び再配分
- ・ 図書費の削減は不可 人件費または運営経費削減するしかない
- ・ コンテンツが一番重要 図書費が学生の増加に応じて増えているか？
- ・ 環境整備＝来て欲しい図書館から、行かなければならない図書館へ  
サービス業としての対応のできる人材を配置  
情報メディア機器の配置等
- ・ 利用の動機づけ  
教員との連携が取れているか  
図書館からの情報発信は十分か  
利用学生への丁寧なケアができていますか